

を動かしたり、散歩をしたり、若い年代の人達とも交流を図り沢山の仲間を作り一日一日を有意義に過ごしたいと思えます。

今後においても、かなりのペースで高齢化社会と電化社会が進む事と思われませんが、私達が長年に関わり学んで来た知識や、体験を十分に生かしつつ、現代社会に向かって進んで行きたいと思う今日この頃である。

## 菊づくりの仲間

北部地区 吉見敏雄

盆養菊（大輪三本仕立）の栽培指導を始めて二十年近くなる。現在、蒲郡市菊の会の仲間は四十八人で、毎月一回定例日をきめて栽培技術の研究に取り組んでいる。年齢層は、四十才代から八十才代と巾が広く、男女半々である。会員の栽培歴は、世代交替もあって、現在は一年生から七、八年生とバラエティーに富んでいる。菊の栽培は園芸店でポリ鉢の五号、九号、菊の支柱、赤玉土、腐葉土、IB化成など資材を求めて、菊の苗を準備すれば入門でき、むつかしい

ものではない。後は、三本立つくり、ダルマづくり、福助づくり、懸涯づくりと栽培型を選んで、栽培テキストを参考に日々管理すれば、一年生でも十一月の「文化の日」には立派な花が咲いてくれる。菊の花は、開花している期間が長く、十一月いっぱい観賞でき楽しみも大である。会員の方が言うには「菊づくりは、一年中仕事があるって、今日は何をしようかなあ」と迷わなくてもよい、菊が仕事を与えてくれる。「菊づくりは、健康管理にたいへん良い。また、仲間との交流ができ、同好会として常に話はずむ」等々である。

菊づくりで私が一番感動するのは、発蕾期から開花期である。毎日繰り出す花弁の神秘的な動きに菊の生命力を感じ、自分も負けてなるものかとエネルギーが湧いてくる。この感動があるからやめられない。さらに、開花期ともなれば、各地で開かれる菊花展に、会員さそい合つて見学に出掛け、菊の出来具合を見て次年度に向かつて栽培意欲を燃す。これが菊づくりで感じる生きがいである。

なお、菊の栽培を希望される方は、筆者まで連絡ください。

## すばらしい子供たち

西部地区 山本 薫

去る九月十四日に、神ノ郷町の敬老会が開催されました。午前十時半開催、主催者及び来賓の方々、の祝辞があり、その後、引き続いて懇談会で心暖まるご馳走を頂きながらアトラクションを見せて頂きました。アトラクションでは、蒲西小五年生の児童の「ひじり山のお皿様」の紙芝居と「水戸黄門漫遊記」のお芝居が上演されました。黄門様では、悪徳商人と悪代官が共謀して三河湾の魚を買い占め、領民を苦しめて居るところへ通りかかった黄門様一行が、ご存知のとおり悪人を懲らしめる場面もありました。助さん・格さん・風車の弥七などの立回りもあり、「この紋どころが目に入らぬか」の「名台詞」もあり、子供達はこの敬老会の為に一生懸命に演じてくれました。私達は、おおいに盛り上がり全員が大喝采を送りました。素晴らしい敬老会の日でありました。また、十月九日の遠足の日には五年の生徒達は、「聖の里探検」と云うテーマでグループ毎

に地域の高齢者を訪れ昔の出来事や古話などを聞く学習会がありました。これについては、事前に学校から一人十分間程度の時間の協力依頼があり、私を含めて十一人程の方が対象となったと聞いております。当日子供達は、四、五人づつ四グループに分かれての訪問でした。最初の組は、元氣良く十一時頃に訪ねて来ましたので、昔の生活についての質問に答えてあげました。子供達は、熱心に色々な事項について聞きながら、後ろに廻つて肩叩きをしてくれる子も居ました。この組が写真撮影をして帰ると、次のグループが待ちかねた様に訪れて来ました。以後三番目、四番目と順序良く続き色々な内容の質問をしてくれました。話の内容は、質素だった衣食住、電化製品の無い時代の話などが主でありましたが、子供達は一生懸命に聞き、メモを取り、肩叩きをしてくれたり、記念撮影をしたり、また、皆で別れの握手をしたりして大変楽しいひと時でした。後日、良い勉強になったと写真を添えて礼状まで届きました。私も高齢となつた今、素晴らしい子供達との交流の場を与えて頂いた事が大変